

2020年度

# 高退協定期総会議案

7月 7日(土) 13:30~15:30  
高知城ホール 2会議室



辞令交付式でパンフ配りを終えて

高知県高等学校退職教職員協議会(高知高退協)  
<http://koutaikyo.web.fc2.com>

## 定期総会の日程

- 1 開会 ……飯田副会長
- 2 議長選出 ……
- 3 物故者に黙とう…橋元副会長
- 4 三谷会長あいさつ 新会員の紹介を含む
- 5 メッセージ …高教組谷村委員長
- 6 議事

1号議案 2019年度 総括に関する件

【1】経過報告と総括 …小松事務局長

【2】決算報告および監査報告 …林会計担当 会計監査…

2号議案 2020年度 活動方針に関する件

【1】活動方針(案) ……小松事務局長

【2】予算(案) ……林会計担当

3号議案 役員選出に関する件…三谷会長

4号議案 その他の件

…議長団解任…

7 新・旧役員あいさつ

8 閉会 ……( )新会長

**16:00～「高退協新会員を励ます懇親会」(高知城ホール2階)**

### 【1】経過報告と総括

2019年度高退協定期総会は、5月18日（土）13:00より高知城ホール3F会議室で、36名の参加で開催しました。高退協新加入の野村幸司、米満敏孝両氏を議長として、物故者に默とう、倉橋会長挨拶、高教組谷村委員長挨拶、事務局より前年度総括と2019年度方針の提案。討論は、米寿祝は継続するが病気見舞いは廃止する慶弔費の改訂、現職支援の問題、視覚障害者サポートステーションこうち「てとてとあさひ」の支援要請、幡多への親睦旅行の可能性、人権共闘や子連での高退協の役割、ビキニ国賠訴訟の取り組みなど活発になされました。

総会後、39名の参加で懇親会を開催。新加入会員と米寿会員に呼びかけ、盛り上りました。

前年度の活動を継続すると同時に、特に高退協財政確保のために会費納入の追求や会員拡大の働きかけを行いました。会員の親睦のため、種々の活動にも努力しましたが、親睦旅行は実施できませんでした。夏季学習会や望年会、初歩きと新春懇親会などの親睦交流会・学習会は定着しています。高退協ニュース、機関誌『こうたいきょう第40号』を発行しましたが、さらに会員相互の協力のもとでより充実したものとしていきたいと考えています。

野党共同での参議院選挙、高知知事選挙に努力しました。

新型コロナウィルスの被害の影響で、2020年度の定期総会日程などの変更を余儀なくされました。

## 1 会員の親睦を図る活動

### (1) 夏季学習会

高知県に甚大な被害をもたらした台風10号が日本海に抜けた8月17日の午後に開催し、32名の参加がありました。

講演は、四万十市議会議員として活躍されている川渕誠司さんの「議員になって」と高教組書記長竹嶋省吾さんの「県立学校の現状について」でした。

終了後の懇親会には24名の参加者があり、和やかに親睦を図ることができました。

なお、講演の内容は機関誌『こうたいきょう第40号』に掲載しています。

(2) 親睦旅行は、高退協独自で計画できませんでした。全退教四国ブロック交流会（徳島・鳴門）、第24回全退教ツアー（滋賀県）に2名参加しました。

### (3) 初歩き・新年会・温泉懇食会

今年度は、1月7日に初歩きをした後、新年会・温泉懇食会を三翠園で行いました。

初歩きは、雨天のため予定者の不参加があり7名の参加者で歩きました。

その後、新年会は温泉に入って山歩きや日頃の疲れを癒してから、お正月らしいお料理を楽しく談笑しながらいただきました。

参加者の顔ぶれが固定しているため、他の開催地も考慮に入れ多くの方に参加してもらえる企画にしていくことが課題です。

### (4) 望年会・芸能祭・作品展

12月14日（土）に高知城ホールで開始時刻を12時半に早め、近年では最高の35名（50代～90代）が参加し、賑やかに交流しました。今年から喜寿の方のご挨拶を頂くように計画し、福原昭彦さんと、渡辺正子さんが参加してくださいました。

芸能祭では岡崎清恵さんの黒田節を始め、畠山佳代さんの歌、岡本肇さんの楽器演奏。踊りでは井上徳治さんの絶妙な“しばてんおどり”、加藤敏恵さんの艶っぽい“銀座カンカン娘”も登場。事務局の方でも「マツケンサンバ」を踊りました。作品展示では会場で、田中副会長から一人ずつの作品紹介がありました。貴重な作品を寄せてくださったみなさん、ご協力ありがとうございました。作品管理が今後の課題です。

「退職してからもこのようにみんなで集まる組織は他にない。生徒と民主主義を守るために闘ってきた仲間だからこそ集まる！」との岡崎顧問の挨拶が清々しく、印象的でした。

## (5) 各クラブの活動

### ①読書会の活動

第171回 4月20日 参加者 5名

「ヒルティの幸福論」 カール・ヒルティ 訳・解説 斎藤 孝 三笠書房

第172回 6月20日 参加者 5名

「B面昭和史」 半藤 一利 平凡社新書

第173回 8月22日 参加者 6名

「日本が壊れていく」 斎藤 貴男 ちくま新書

第174回 10月24日 参加者 6名

「平成の終焉」 原 武史 岩波新書

第175回 12月19日 参加者7名

「教育改革と新自由主義」 斎藤貴男 子ども未来社・寺子屋新書

第176回 2月20日 参加者 6名

「日本が売られる」 堤 未果 幻冬舎新書

②スキークラブは、1月26日～29日の3泊4日、6名参加で山形蔵王温泉スキー場で、スキー・樹氷・温泉を堪能しました。

## (6) 2019年度の機関紙「高退協ニュース」

5月号（218号）から3月号（223号）まで、1年間で隔月（5,7,9,11,1,3）に計6回発行しました。7月号（219号）から紙面のサイズを従来のB4二つ折りからA3二つ折りに変更しました。行間隔も広げて「見やすいニュース」を心がけています。主な記事は折々の高退協の活動、会員の動向、社会の話題などですが、詩や短歌、俳句、川柳などの文芸欄も、会員の方々の投稿により構成しています。

活動・行事報告の記事は事務局の担当がほとんどですが、事務局外の会員の方から以下の投稿がありました。

218号 田所金久さん	「不自由の中の自由、または読書」
219号 宮川敏彦さん	「天皇の退位・新天皇の就任・元号について思うこと」
西原道雄さん	「つつじの話」
220号 三谷美佐子さん	「お勧めの一冊」 宮川敏彦さん 「天皇制を考える」
田所金久さん	「スポーツ、二つの輝く嶺」
222号 宮川敏彦さん	「手箱山の氷室とまつり・考」
223号 別役美佐さん	「完走しました 龍馬マラソン」
吉岡太史さん	「アメリカの外交政策を理解するために (その1)」
田所金久さん	「オリンピックの光と影」

4,000字を超す投稿もあり、意識の高さ、豊富な話題、内容の深さなど、会員の方々の優れた意見・取り組みを高退協ニュースで報告できることを感謝いたします。これからも幅広い分野で投稿をお願いします。

高知市周辺に比べ、東部、西部地区の行事や話題の掲載が十分でなかったことが今年度も課題となりました。東部・西部地区の会員の皆様には個人のこと、社会のこと、どんなことでも分野にこだわらず積極的な投稿をお願いいたします。

連載では町会議員の山崎よさんから、「いのの風に吹かれて」の中で今年度もさまざまな問題を投げかけてくれました。新しく事務局員になった土居修さんは「妻に叱られて」シリーズの中で、多様な人物・出来事をサカナに夫婦のあいだに流れる味わいを楽しい文章で表現してくれました。

文芸欄では詩・短歌・俳句・川柳それぞれ個性のある作品が寄せられ、毎号楽しみにしているという話も聞きます。

ニュース担当として、会員の方々の積極的な投稿をお願いし、高退協ニュースが会員間の情報交換、交流の場としてさらに一層発展するよう努めたいと思います。

(7) 高退協ホームページ <http://koutaikyo.web.fc2.com>

2015年より高知高退協ホームページを開設しています。活動予定、活動報告、高退協ニュースなどを掲載しています。武田豊さんの協力により、月2回以上更新しています。活用をしてください。

(8) 機関誌『こうたいきょう』

1976年の高退協発足の年に創刊して以来、号数を重ね記念すべき40号を発刊することができました。特集「わたしと憲法」に2名、「私の健康法」に3名の原稿を掲載し、さらに研究論文に5名、自由論文に1名、寄稿文に2名、文芸（隨想・詩・短歌・俳句）に4名の方の秀作や力作、7本の追悼文や28通の近況報告、夏季学習会報告を載せ、多彩で重厚な機関誌となっています。

今年度も多くの原稿が寄せられることを期待しています。

(9) 組織について

①組織の現状について

2019年度の加入者は、7名でした。2018年…10名、2017年…7名、2016年…12名

2020年4月現在の会員数は、406名（2020年加入6名含む）で、特別会員は12名です。

②会員名簿について

今年度は定期総会の決定を受け、会員名簿を発行しませんでした。

なお、住所や電話番号など変更があれば、事務局まで連絡をお願いします。

③文書の発送について

奇数月発行の「高退協ニュース」や、年1回発行の機関誌『こうたいきょう』などを発送しました。高退協の各種行事の案内チラシや関連団体の催し案内なども同封しました。

手配り配達は、役員以外も協力し、近況を聞くなど連絡を取り合っています。一方、種々の事情で手配りを辞退する会員が出てきています。世代交代し、新規に手配り配達してくれる会員を探していく必要があります。

(10) 慶弔報告（敬称略）

○米寿の方

塙見広花、岩崎弘志、唐岩明男、岡村敏彦、林 応子、坂本正夫、武市 勇、坂本敬子、渡辺幸子、叶岡淑子、弘瀬和子、森岡恭子、田辺復逞、永田和子

○逝去された方

川澤啓三、間 吉夫、古谷守則、榎原忠彦、長尾美佐子、西原道雄、寺尾 芳、河野 功、浜口尚也、

○病気見舞い…入院された方を数名、事務局で把握していますが、2019年度総会で見舞金を出さないと決定しています。適宜お見舞いに行きました。

(11) 事務局会議は、月1回、第1火曜日を開催することを原則に行いました。会員の動向や前月までの取り組み報告と反省、次月以降の予定や具体的取り組みを論議・確認し、共通理解を図りました。情勢にあった話題提起を副会長が行い、ミニ学習会ができました。事務局会は、12回開催しました。

## 2 生活や医療・福祉など要求する活動

(1) 高知県高齢期運動連絡会<高運連>

○第33回日本高齢者大会

9月25日、26日 福島県で開催されました。高知県からの参加は9名でした。

○第33回高知県高齢者大会

12月4日 ソーレで開催されました。

ケアプランの有料化やその人らしさを大切にした介護といった高齢者の学習講演と、5分科会、①脳いきいきリズム ②作ってみよう手品の種づくり ③エンディング

ノート ④ボチャ体験 ⑤医療生協ディサービス「やまもも」の見学に分かれそれぞれ体験しました。

## (2) 高知県社会保障推進協議会（県社保協）

2019年度総会は、5月18日に婦人会館で行われました。

全国保険団体連合会の曾根貴子さんの講演があり、今後に狙われている患者負担増について具体的なお話がありました。

①75歳以上の窓口負担の2割化 ②受診時定額負担 ③薬剤の自己負担引き上げ ④資産状況を考慮に入れて負担を求める仕組みです。

## 3 高教組・県教組と連帯して民主教育をすすめる活動

### (1) ①退職3団体、教育5団体の取り組み

高教組・県教組と退職3団体（高退協、県退教、退婦教）で構成する「教育5団体連絡会」は、高退協の担当で3回の会議を開催し、「8・15戦争を語りつぐつどい」の企画を中心に活動し、情報交換と共同の取り組みをすすめました。

#### ②「8・15戦争を語りつぐつどい」の取り組み

退職3団体の持ち回りで企画している標記の集会は、2019年度は高退協の担当で「核兵器禁止条約」を中心テーマに基調講演（青木宏治氏）、幡多高校生ゼミナールのシンポ、ビキニの海のねがい（文化行事）等を準備してきましたが、台風のため開催中止となりました。来年度は退婦教が担当となります。

#### ③高教組を支援する取り組み

財政的・組織的な課題を抱える高教組を、「現退一致」の原則のもと高教組運動を支え励ます立場から、主に次のことに取り組んできました。

\*現退協議会（高教組委員長・書記長、高退協飯田・野村・小松・胡摩崎・米満）を、月1回のペースで開催し意見交換と共同の取り組みを協議。

\*2018年度から胡摩崎さんに書記業務の支援を依頼し書記局業務をサポート。

\*2019年度には野村幸司副会長を高教組特別執行委員として高教組運動の支援にあたるようお願いし、現職 執行部支援の取り組みをすすめてきました。

しかし今まで高教組の財政の改善はすすまず、2020年度は専従の書記長を配置することが困難となり専従者不在で書記局を維持するという、極めて厳しい状況を迎えます。

現退協議会では、県内外の状況も参考に今後の対応を検討してきました。そして、2020年度も引き続き野村幸司副会長、胡摩崎ゆう子さんの協力をお願いすることと合わせて、平日昼間の時間帯に高退協会員を中心としたメンバーによる書記局の留守番・実務補助等の業務を、可能な範囲で協力するよう取り組んでいます。

### (2) 2019年度高校・障害児学校教育研究集会「未来をひらく教育のつどい」

高知県から創り出した「開かれた学校づくり」全国交流集会が、20回を期して、11月8～10日、太平洋学園高校で開催されました。野村幸司さんが事務局長として奮闘し、高退協も全面的な協力体制で取り組みました。例年11月に実施されている問題別の研究集会の位置付けで取り組みました。全国から200名を超える参加があり、様々な立場の方が一堂に会して語り合う貴重な機会となりました。会員も当日の運営や参加者として協力しました。2月23日（日）には高知東高校を会場に講演会と教科別研究会が行われました。午前中は品川文雄さん（NPO法人発達保障研究センター理事長）を迎え、「インクルーシブ教育をどうとらえるか」のテーマで講演いただきました。午後からは国語、社会、数学、理科、障害児学校の分科会を行いました。全体は41名で、数名の保護者参加がありました。高退協からは6名が参加。保育担当をした会員もいました。締め付けの多い職場の中で、子どもの発達・成長のために懸命に取り組む姿勢に励まされます。現職との連携をより強めましょう。

### (3) 「ゆたかに学べる教育の実現をめざして高知市に小・中・高、寄宿舎のある県立の百名規

## 模の知的特別支援学校」（略称「学校をつくる会」）の活動について

2019年5月に高知県の知的障害特別支援学校の児童生徒数の増加傾向による学校の狭隘化の課題や児童生徒数の増加のため増築や特別教室を普通教室に転用する等の対応をしている現状に将来を見据えた抜本的な改善、解消の方策について検討することを目的に、「高知県における知的障害特別支援学校の在り方に関する検討委員会」（略称「検討委員会」）が設置されました。

これに対して、知的障害児童生徒の教育権や教育環境を保障するために学校や教職員が様々な知恵と工夫、努力を重ねてきましたが、このままでは学校が「児童生徒たちが学び、豊かに伸びる環境と言えるのか」「学ぶことを保障しているのか」と、「検討委員会」と県教委、そして県民に実態や要望を伝えて改善していこうと、高教組や県教組が呼びかけ、保護者、障害者施設の支援員、特別支援学校や特別支援学級の教職員、関心のある県民など広範な人々が集まり、立ち上がり、表記の会を結成しました。高退協も会設立当初から関わり、会の代表委員や事務局員に会員を積極的に派遣し活動に参加してきました。

「学校をつくる会」は、5月から「検討委員会」答申までの間、各団体への協力要請や2回の街頭署名も含めて1万2千筆の署名、検討委員会の場での直接の意見陳述、検討委員へのアプローチ、県教育長との懇談会、親の思いを語る会、特支学級担任の会、全国の学校建設運動を学習する会、要請ハガキなど（順不同）に精力的に取り組みました。

「検討委員会」の答申は、①40から50名規模の②高知市東部周辺で③中学部高等部の④既存施設利用の知的支援学校の新校整備が出され、喫緊の課題でもある山田特別支援学校の狭隘化が2、3年後に解消されることや通学困難者に対応するために寄宿舎の設置も検討する、南海トラフ地震の危険がない安全な設置場所の検討なども確認されており、「学校をつくる会」の活動や要望が一定反映されました。新校の設置により、知的障害児童の進学先の選択肢が増えることなども期待されます。

今後も、引き続き①高知県におけるインクルーシブ教育の在り方や地域・小中学校での現状の把握や検討をし、②新しく設置される学校へ具体的な要望をし、そして「学校をつくる会」の名称でもある③「ゆたかに学べる教育とは」、「なぜ小・中・高なのか」「どうして寄宿舎が必要なのか」「どうして百名規模なのか」「県下の特別支援教育はどうあるべきなのか」の具体的な提言や活動が必要です。

## （4）「子どもと教育を守る高知県連絡会（子連）」の取り組み

子連には高退協から事務局員として参加しています。様々な団体と連携して、「ゆきとどいた教育を求める署名」「えがお署名」などに取り組みました。10月22日「せんせいの働き方とゆきとどいた教育を考える」シンポジウム、2月24日学習会（全国学テ・県版学テについて具体的なデータや学校現場の実態をもとに学力の本質を学ぶ学習会）・子連総会にも高退協から参加し学習を深めました。

## 4 平和・民主主義・人権を守り政治革新をすすめる活動

### （1）政治革新の取り組み

2019年は選挙の年であり、市民と野党との共闘が大きく前進した年となりました。

県議会議員選挙で野党共闘の統一候補が多く勝利した力を糧に、7月の参議院選挙さらには1月の県知事選挙はともに松本けんじさんを野党統一候補して闘い、市民と野党との共同、野党の本気の共闘を大きく発展させることができました。高退協では、参議院選・知事選を組織として推薦し取り組みました。また、高知市長選では高退協が参加する「民主市政の会」から立候補したおかだ泰司氏を支持して選挙戦に取り組みました。アベ政治を一刻も早く終わらせ日本の政治に立憲主義と平和主義を取り戻すため、来たる衆議院選挙に向けた野党共闘のさらなる強化が望まれます。

### （2）人権共闘での取り組み

「人権と民主主義・教育と自治を守る高知県共闘会議」に加入して、事務局員も派遣して活動に参加してきました。高退協からは会員の原 淳さんが副議長に、鎌田伸一さんが事務局員に別途に選出されています。2019年度は、香南市の人権に関する市民意識調査と人権教